

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

中学生が考えるまちづくり

三股中まちづくり部

三股町

事業名:中学生が考えるまちづくり

1.団体の概要

三股中まちづくり部(以下「本部」という。)は、三股町におけるまちづくり活動に関心を持つ有志により構成されている。構成員は、自治会活動や地域ボランティア、地域行事の企画・運営に携わった経験者、元小学校校長、管理栄養士、ベビーシッターなど、多様な専門性を有している。各構成員はそれぞれの知見や経験を生かし、当町の次世代育成及びまちづくりに資する活動を行っている。

本事業においては、三股中学校の生徒が主体となって活動を実践し、本部は生徒の主体性を尊重しつつ、活動が円滑かつ安全に進むよう必要な助言や調整を行い、生徒が自ら考え実践できる環境づくりに努めている。

2.事業の目的及びねらい

本事業は、当町で唯一の中学校である三股中学校の生徒に対し、町の特産品を活用した商品開発及び販売の機会を提供するものである。

これらの活動を通じて、生徒が地域の大人との関わりの中で社会の仕組みを学び、郷土の魅力や地域経済について理解を深め、まちづくりに主体的に参画する姿勢を育成することを目的とした。

さらに、生徒が町に対する愛着を醸成し、将来にわたり住み続けたいと考える若者を育てるとともに、若い世代と協働する持続可能なまちづくりの基盤を構築することをねらいとしたものである。

3.活動内容

本事業は本部の支援体制の下、生徒が主体となって企画及び実践を行った。本事業には70名を超える生徒が参加を希望し、「ものづくり班」「イベント班」「広報班」の3班体制で活動を行った。生徒は希望や活動内容に応じて班に所属し、一部は複数の班に所属して活動した。各班の活動は以下のとおりである。

(1) 中小企業振興基本条例づくりへの参画

- ・実施日:令和7年10月1日(水)、15日(水)、22日(水)(計3日間)
- ・実施時間:15時30分~17時
- ・実施場所:三股町交流拠点施設「あつまい」
- ・参加人数:中学生25名、団体スタッフ4名、地域協力者6名

生徒は、ワークショップ形式で条例案の検討を行った。

本活動には、ものづくり班・イベント班・広報班の希望者が参加し、三股町の商工課や本部から



地域の大人と一緒に「条例づくり」に取り組む生徒

助言を受けながら主体的に取り組んだ。条例づくりに参画するという希少な機会を通して、地域経済や行政の役割について自ら考える契機となった。

(2) インスタグラムによる継続的広報活動

・実施期間:令和7年11月24日(月)~継続中

・参加人数:広報班14名、団体スタッフ1名

広報班は、活動内容を広く発信するため、インスタグラムでリール動画、フィード投稿及びストーリーズ投稿を継続的に実施した。投稿内容は生徒が企画・制作し、本部は必要に応じて助言や確認を行った。

令和7年12月11日(木)投稿のリール動画は、令和8年1月時点で約12,000件の「いいね」と約89,000回の閲覧数を記録し、町内外に対する情報発信力の向上に寄与した。



machidukuri_mimata :

三股中まちづくり部

投稿4件 フォロワー495人 フォロー中3人

宮崎県北諸県郡三股町の魅力を地元の中学生在が発言中！

イベント/グルメ/特産品/映えスポット/まちづくり

■活動内容

- ◎三股町の特産品を使った商品開発
- ◎三股町のおすすめグルメ&映えスポット
- ◎イベント出店物作成やイベント企画&参加
- ◎三股の条例づくりにも参加！?

インスタグラムのアカウント



話題となったリール動画のサムネイル

(3) 給食センター前看板のリニューアル原案作成

・実施日:令和7年12月17日(水)

・実施時間:15時30分~17時

・実施場所:三股町第1地区分館

・参加人数:中学生50名、団体スタッフ3名、三股町職員2名

ものづくり班は、複数グループに分かれ、給食センター前看板のデザイン原案を作成した。

本部及び三股町の職員は助言・調整を行い、生徒が主体的に検討・提案できる環境を整えた。

地域の特色や食の大切さを盛り込んだ提案は三股町に提出され、公共空間の景観向上及び若い世代の参画意識向上に寄与した。



看板の原案を考える生徒



生徒が考えた看板の原案の一部



町の中心部にある大きな看板(リニューアル前)

(4) 地域イベントにおける年越しそばの提供

- ・実施日：令和7年12月30日(火)
- ・実施時間：10時～15時
- ・実施場所：たていけ至福の園
- ・参加人数：中学生17名、保護者9名、団体スタッフ3名

イベント班が中心となり、そばの調理・盛り付け・提供を行った。広報班はチラシ作成・配布を担当した本部は安全面や運営面の支援を行い、生徒自らが主体となって地域住民に年越しそばを提供した。地域住民との交流を通じ、日頃の感謝を伝える機会となった。



広報班のイベントチラシ



地域の方に年越しそばを提供する生徒の様子



地域の方の笑顔

(5) 特産品を活用したドーナツの試食会

- ・実施日：令和7年12月30日(火)
- ・実施時間：9時30分～15時
- ・実施場所：たていけ至福の園
- ・参加人数：中学生6名、団体スタッフ1名

ものづくり班は、町の特産品を活用したドーナツを考案・試作し、地域イベントにおいて試食会及びアンケートを実施した。活動は生徒が企画から実施まで主体的に進め、本部は工程管理や安全管理の支援を行った。

生徒は、地域資源の調査から商品企画、試作、提供、評価までを一貫して体験することで、「三股町らしさ」を生かした商品開発や消費者ニーズの重要性を学ぶ機会となった。



ドーナツづくりに取り組む生徒



地域の方に向けて試食会を実施



完成したひとくちドーナツ

4. 事業の成果及び効果

(1) 中小企業振興条例づくり

中学生が条例策定過程に参与する経験は非常に希少であり、地域社会の制度や経済の仕組みを自分事として捉える視点の醸成につながった。条例案の作成や議論を通じて、参加生徒は政策形成の過程や意思決定の仕組みを体験し、課題を整理し協働で解決策を検討する過程に主体的に取り組む経験を得た。

また、行政や地域事業者にとっても、若い世代の意見を政策形成に反映する新たな協働の形を示す成果があり、今後の地域活動や事業運営におけるモデルケースとしての意義も大きかった。

さらに、条例づくりに関わった経験は、参加生徒の地域理解や参画意識の深化にもつながり、若い世代と地域との関係性強化の一助となった。

(2) インスタグラムによる継続的な広報活動

インスタグラムをはじめとするSNSを活用した情報発信により、多くの閲覧及び反応(いいね)を得ることができ、町内外への情報発信の拡充につながった。特に閲覧数の多かった投稿では、若い世代ならではの視点を生かした広報手法が効果的であることを示す取組となった。加えて、参加生徒は情報発信の企画や表現方法を実践的に学ぶことで、課題を整理し協働で解決策を検討する過程に主体的に取り組む経験を得た。この経験は、生徒自身の学びだけでなく、地域住民にとっても町の活動やイベントを身近に感じる機会となり、若い世代の参画や地域の魅力の認知拡大に資する成果となった。

また、SNSを活用した広報活動の成果は、今後の地域情報発信や若い世代との協働事業において、参考として活用できる取組の一例となった。

(3) 給食センター前の看板リニューアル

生徒のアイデアが形となり、給食センター前の看板をリニューアルすることができたことで、地域景観の向上に寄与した。自分たちの提案が公共空間に反映される経験を通して、参加生徒は地域の仕組み

や環境に対する理解を深め、地域への関心や愛着の醸成につながった。

また、この取組によって、地域住民も若い世代がまちづくりに主体的に関わっていることを実感する機会となり、地域全体での交流や参画意識の向上にも寄与した。さらに、看板リニューアルを通じた生徒の参画は、公共空間における若い世代の意見反映のモデルケースとして、今後の地域活動や協働事業における手本となる取組となった。

(4) 年越しそば提供イベント

生徒自身が調理・盛り付け・提供を行い、地域住民や学校関係者に感謝を伝える貴重な交流機会となった。参加生徒は主体的に調理や接遇を担当することで、作業の計画性や協働作業の重要性を実感し、実践的な技能を身に付けることができた。

また、地域住民との直接的な交流を通じて、世代間のつながりが強化され、地域コミュニティの活性化に寄与した。この経験により、生徒は地域への関心や参画意識を深め、公共空間や地域資源の価値を自ら体感することができた。

さらに、地域住民にとっても、若い世代が主体的に地域活動に関わる姿を目にするすることで、地域との関わりや協働の意義を再認識する機会となり、学校と地域の結びつきが一層強化された。

こうした体験は、今後の地域活動や学校行事における生徒の参画促進のモデルケースとしても示唆に富む取組であった。

(5) ドーナツ試食会

地域特産品を活用した商品開発を通じて、参加生徒は「三股町らしさ」を意識した商品作りや地域ニーズを踏まえた企画の重要性を学ぶことができた。

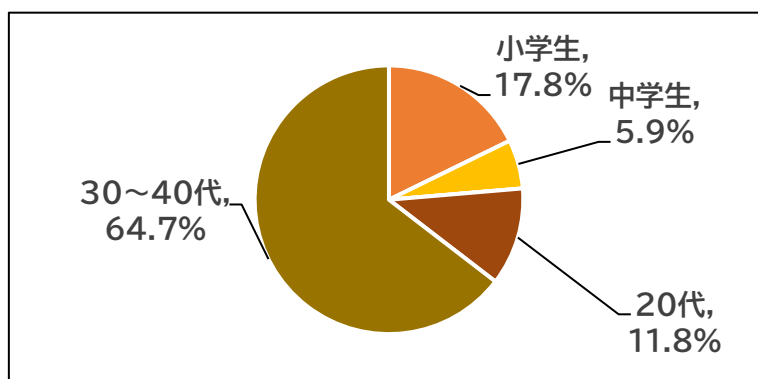
さらに、地域資源の調査、試作、試食、アンケート分析という一連の過程を経験することで、経済活動の流れや消費者ニーズの重要性を実感し、主体性、協働性及び課題解決能力の向上が認められた。

これらの経験を通じて、参加生徒は地域資源や地域活動の価値を理解するとともに、地域との関わりや社会参加意識を深めることができた。

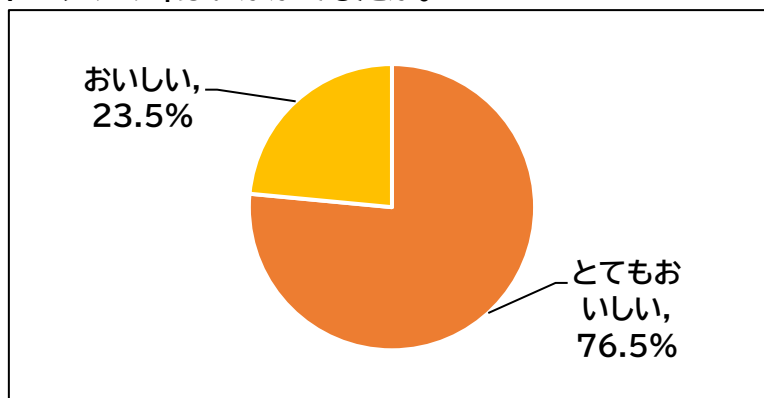
アンケート結果

味については、「とてもおいしい」「おいしい」と答えた人が多かった。また、「また食べたい」と答えた人も多かった。特に味や大きさが良かった点として挙げられた。

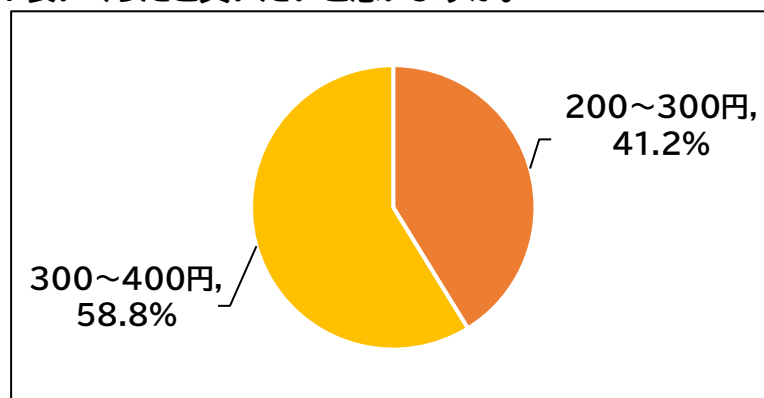
1. あなたの年代を教えてください。



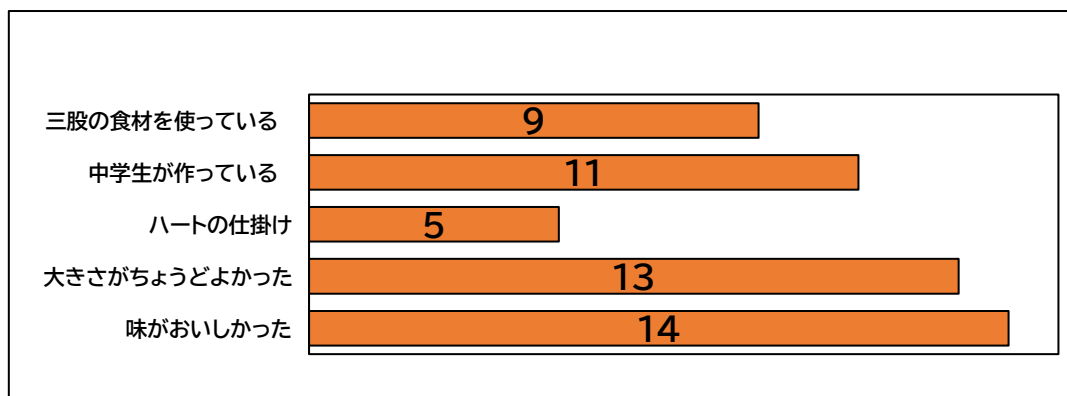
2. ドーナツの味はいかがでしたか。



3. 1袋いくらだと買いたいと思いますか。



4. どんなところが良かったですか。(複数回答)



5. また食べたいと思いますか。はい100%

6. 改善してほしい所があれば教えてください。

- ・もう少し柔らかいとよかったです。
- ・コーティングしているチョコがもう少し固まっていたら、なお良かったと思います。
- ・もう少し小さく、2段にしてほしい。
- ・ごまのドーナツが少なかったのもっと欲しい。
- ・改善点はなくて、サイズや味などとてもよかったです！

5.まとめ

本事業を通じて、参加生徒には主体性、協働性及び地域課題への関心が育まれた。

また、条例づくり、看板原案作成、特産品を活用した商品開発等を通じて、参加生徒は実践的な学びを深めるとともに、町にとっては、若い世代とともに地域を考え、実践する新たな連携モデルを示す取組となった。

SNSを活用した広報や地域交流イベントは、町内外への情報発信力の向上や世代間交流の促進に寄与し、本事業は参加者個人の成長にとどまらず、地域全体に前向きな影響を及ぼす成果をあげた。

また、地域理解や地域への愛着を醸成し、将来にわたり住み続けたいと考える若者の育成という目的に対しても、着実な成果が得られたと評価できる。

今後も三股中学校まちづくり部の活動を継続及び充実させ、地域と学校が連携した持続可能なまちづくりの推進に努めたい。